

令和3年度 名古屋市芸術賞受賞者の概要

【 芸術奨励賞受賞者 ^{かにえ}蟹江 ^{びはち}尾八（68歳） 伝統芸能（民謡） 】



名古屋市出身。全国の民謡に精通しており、その中でも特に座敷民謡と端唄を得意としている。昭和48（1973）年、民謡と端唄（唄及び三味線）を篠田紫栄氏に師事し、昭和62（1987）年に「名古屋甚句」で「全日本民謡民舞連盟全国大会」優勝、平成2（1990）年には「岡崎五万石」で「輝け！日本民謡大賞愛知県大会」優勝を飾る。

平成4（1992）年以降は毎年「民謡と端唄 蟹江尾八会」の公演を行い、令和3年度の公演にて30回を数える。また、弾き語りライブコンサートを各所で開催するほか地元の盆踊り曲や新作端唄の作詞作曲を手掛けるなど意欲的に活動を行っている。

こうした活動の一方で平成9（1997）年より千藤幸蔵氏の下で邦楽学理を修得し、名古屋市及びその近郊地域における埋もれた民謡の発掘採譜の研究に取り組む。平成28（2016）年には、こうした研究の成果として、発掘採譜した民謡に三味線伴奏の手付けをし、解説を加えた『愛知県民謡集 第一巻 一三味線譜と解説一』を発刊。本書は、民謡の数が少ないと言われてきた当地域に、消え去ろうとしていた文化を蘇らせ、民謡文化の発展の一翼を担うことを願って制作されたものであり、現在は第二巻の制作に取り組んでいる。第二巻は近々の発刊が予定されており、今後も演奏活動と研究活動の両方において、さらなる活躍が期待される。